

CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 11/Nov/2025/vol.852

南天の葉 緑・赤 -あしらい・飾り- (福島県産 徳島県産) "Nanten", Nandina, Sacred Bamboo

南天は中国原産、古くから漢方でも赤い実を南天実(なんてんじつ)といって咳止めの薬として利用されて来たようです。和名の「南天」は漢名「南天燭」から来たといわれています。日本では最初は庭木として植えられ、冬に赤くて丸い実をつけることで赤い色は厄除けの色ともされ、慶事にも使われるようになってきました。そしてその名前からもうかがえるように、「難を転ずる＝ナンテン(難転)」ともいわれ縁起の良い木として、家の鬼門に設える魔除けの植物としても重宝がられました。戦国時代には武士の必勝祈願や、妊婦の安産を願うアイテムなどにも用いられていたようです。和食の世界においても、しばしば登場する「南天の葉」ですが、その中でもお赤飯に乗っているものをイメージする人は多いのではないのでしょうか。祝い膳のお赤飯を南天であしらう、おめでたい意味だけではなく、南天の葉には熱のあるものと一緒にする事で、防腐作用の成分を発生させるという特性があるそうです。いろいろな意味で「難を転ずる」南天(なんてん)。年末も視野に入ってきた今、縁起担ぎと安全祈願も含みつつ、緑と赤の聖なる南天の葉を今年の感謝と願いを込めて様々なお料理にあしらってみてはいかがでしょうか。